



みなみ

MINAMI

Vol. 133

題字揮毫 加賀谷 雪泉



威風堂々たれ

校長 三上 隆裕

第五十四回生の皆さん、卒業おめでとう。

今春も、二百三十名の生徒が本校を卒業し、新たな世界へと果立っていきます。

卒業生の皆さんは、進路面では、国公立大学をはじめとする上級学校への進学、そして

部活動では、空手道部のインターハイ東海大会への出場や視聴覚部・写真部・書道部・自然科学部の全国高総文祭長野大会への出場など、運動部・文化部ともによく活躍し、本校のモットーである「文武両道」を、しっかりと実践してくれました。

さて、これから果立っていく皆さんに、期待を込めて次の言葉を贈ります。それは、「威風堂々たれ」です。作家の司馬遼太郎氏は、著書『明治という国家』の中で、「日米修好通商条約」の批准のために渡米した、江戸幕府の使節団のことを書いています。「チヨンマゲを結い、刀を差して、草履で歩く小柄な數十人が、初めてニューヨークのプロードウェイを行進しました。一般的アメリカ人が初めて見る日本人です。日本とアメリカの文明の格差は相当なものでしたが、司馬遼太郎氏は次のように書いています。「誰もが、この日本使節団に感心した。その挙措動作、品の良さと穎敏の念を抱かせた訳です。日本のサムライたちは、アメリカとの國力の差を物ともせずに、顔を上げて、胸を張り、歎声が湧き上がるブロードウェイを、「威風堂々」と行進したのです。このことは、真にグローバルな人材とは何か、ということを考える上でとても示唆的です。自らの文化に誇りを持ち、どんなときでも毅然としていること、そして、個人として強い人間であることなど、グローバリズムの基本は、ローカリズムなのです。

五十四回生の皆さん、弘前南高校で友と学び、部活動に励み、学校行事に打ち込んだ三年間を誇り思つてください。四季折々、美しく豊かな自然の弘前市で育つたことを、胸に焼き付けてください。そして他人を出し抜くことを好み、穏やかな地域性と人間性が作り上げた、温かい故郷の言葉を忘れないでください。このことが君たちの今後の礎となつてきます。これから行き着く場所が、ビルディングの聳え立つ東京の大都会であろうが、言葉の不自由な外国であろうが、恐れることはありません。あのブロードウェイのサムライのように、胸を張つて堂々と生きてください。それでは、皆さんのこれから的人生が、実り多いものになることを切に願っています。

謙虚な心で

育勵会代表理事 尾崎 寿一

卒業生の皆さん、おめでとうございます。

皆さんはこれからそれぞれの道を進んでいくことになります。新しい時代を迎える皆さん方を待ち受けている社会は、自分の意見や考え方を人の前で堂々と話せる人が、求められることでしょう。自己主張のはっきりとした人といえるかもしれません。そのような時、自分を押し通すのではなく、相手の立場や求めていることを認めようとする謙虚な心をもって、自分の意見や主張を述べてみて下さい。そうすると円滑に物事が進んでいくように思います。

これから幾多の困難に出会うことになります。しかし、これも皆さんの若々しい情熱と強い意志が、新たな未来を切り開いていくチャンスになります。たとえ困難なことがあろうとも立ち向かっていく気概をもって、今日からの一步を踏み出して下さい。皆さんの活躍に期待しています。



卒業おめでとう

3年次主任 高橋 知子



第54回生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、この3年間本校への教育活動へのご理解とご支援をいただきありがとうございました。これからは、世の中への関わり方がこれまで以上に広く深くなります。今までより庇護が小さくなり、その分責任が大きくなっています。自分で選んだ目標に向かって歩んでいくわけですが、様々な壁にぶつかって悩むことも多くなることだと思います。やりたくないと思うこともあるでしょう。でも、どんなことでも引き受けやってみましょう。必ず自分を大きく磨き、強くしてくれることだと思います。大変だと思うようなことを前にすると不安でどうしようもなくなることだと思いますが、不安をなくす解決策は「行動する」ことだと思います。とにかく一歩ずつでもやっているといつか道は開けていける気がします。「おそれず、ひるまず、あきらめず」に進んでいって欲しいと思います。皆さんが様々な分野でご活躍することを期待しています。

自分にしかできない事

3年次委員長 田村豊佳子



ご卒業おめでとうございます。

南高校で過ごした三年間は皆さん的人生の宝物です。これからはそれぞれの道へと進んでいきますが、「自分にしかできない事」を見つけて下さい。人は皆それぞれの能力を持っています。その力は周りの人への光となり輝き続けてほしいと思います。自分自身が向上していく為の日々の努力も忘れないでください。

南高校で学んだ皆さんは、新元号となる新しい時代の幕開けに「自分の力」を信じ、光り輝く人になって欲しいと願っています。

贈る言葉

31 H.R. 担任 川浪 陽平



ご卒業おめでとうございます。

学者で黄熱病の研究で知られる野口英世は、「一人の一生の幸せも災いも自分から作るもの、周りの人間も周囲の状況も自分が作り出した影と知るべきである」と述べています。困難に直面したとしても、絶望することなく、自ら動くことによつて難局を開拓し、未来を変えていくことができるということです。自分の人生を変えていけるのは、自分だけです。よい人生を切り拓いていくよう祈っています。

贈る言葉

32 H.R. 担任 工藤 靖大



これまでには基礎学力定着のために、「皆と同じことが言えるか」が求められてきたと思う。これが「勉強」である。これが先は基礎を理解した上で、「他人と違ったことが

言えるかどうか」が求められる。これが「学問」である。社会では正解のない問題を解かなければならぬことや自分で問い合わせ立てることが必要とされたりすることが、自分では気づかないことがあります。人生の岐路というのは自分では気づかないことが多いため（と思う）。なんとか自分で歩んでいくのも一つの人生である。しかし、なりたい自分を思い描いてく選んで歩いていくのも一つの人生である。しかし、常に持ち、柔軟な心で学び続けてほしい。

卒業おめでとう

33 H.R. 担任 水木 るみ



「また機会はあるさ、と思つたが、それが最初で最後だった。人生の節目は自分ではそれとわからぬ」昔観た映画の台詞である。確かに、と思う。人生の岐路というのは自分では気づかないことが多い（と思う）。なんとか自分で歩んでいくのも一つの人生である。しかし、なりたい自分を思い描いてく選んで歩いていくのも一つの人生である。しかし、常に持ち、柔軟な心で学び続けてほしい。

卒業生に送る言葉

捉え方次第で人生は変わる！

父母と教師の会会長 佐々木正和

ご卒業おめでとうございます。3年間の南高生活はいかがでしたか。勉強、部活、課外活動などで挫折感や達成感を味わい、多くを学び、素晴らしい気づきを得たのではないでしょう。これもひとえに家族や先生方はもちろん、ここで出会った沢山の仲間の支えがあったからこそです。

この気づきは、これから長く短い人生の様々な節目において、進むべき道を決める判断材料となるはずです。どのような道を歩むか、悩みに悩んで納得してください。

これまで以上の挫折や成功、喜びや悲しみが君たちを待ち構えています。どのように納得をするかで、その先の人生も変わってきます。挫折した時もポジティブにプラス思考でその状況をチャンスと捉えて前に進んでみよう。君たちは無限の可能性を秘めているのだから。



五十四回生皆さんへ

錫杖会会長 油川 安孝

栄えある五十四回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

思い出せば三年前、皆さんは高校受験生でした。不安と焦りの中、入学試験を迎えたことと思います。晴れて合格してから三年間、皆さんは高校生活の中から何を学んだでしょうか。

これまで親の羽の下で守られてきた皆さんは、これからは広い世の中に出て行かなければなりません。進む道は違っても、期待と不安が混じり合った気持ちの中で、次のステップへと駒を進めるわけです。大きな障害に出会うこともあるでしょう。大きな喜びに出会うこともあるでしょう。でもそれらは、この弘前南高校での三年間があったからこそなのです。

卒業後の皆さんとの繋がりは「錫杖会」を通してになりますが、毎年七月に総会を開催しています。ホームページにも掲載されますので、是非参加して下さるようお願いいたします。



の節目を意識して生活している。節目には大きな目標を定めるものもあり、どんな節目であれ、それまでの過程を振り返るものである。その時、失敗や後悔で踏みとどまってしまうこともあるかもしれません。しかし、時は止まりません。これから長い人生を歩み続けるためには、節目で歩む方向を必ず前に向ける。時には目標を定め直して歩んでいくということもある。とにかく前進。



前を見て歩け

34 H.R. 担任 小森 修

時の流れには節目がある。大小関わらずそ



贈る言葉

35 H.R. 担任 一戸 右真

物事を成し遂げるためには集中すること



我慢することが大切である。脇目もふらずにゴールだけを見つめ、自分の可能性を信じて愚直に努力する人こそが何かを成し遂げる人物である。これから、諸君は自分の決めた道をそれ歩むことになるが、まだ道半ばである。情報過多の現代に呑まれることなく、これから立ちはだかる大きな壁を乗り越えて自分自身の目標を達成して欲しい。君達の大きいなる可能性に期待している。卒業おめでとう。



S S H を背おつて

36 H.R. 担任 高木 和彦

期生として皆さんは気づいていた



でどうか、数多くの実験活動をしてきましたが、実は私達自身が実験対象であることを。こう書くと誤解がありますが、言い換えると「高校での主体的学習への挑戦」です。S S Hとは「理数の授業開発、大学等との連携研究、科学技術人材の育成」を目的とした文科省の施策で、本クラスクでは理科、英語等の一部を課題研究等に代替しました。成果は皆さんのこれから始まる新しい未来の中になります。S S Hが伊達じやないことを証明してください。

修学旅行

今年の修学旅行は、10月2日(火)から6日(土)まで、4泊5日の日程で実施されました。

今回は、広島まで足を伸ばして、平和記念公園と厳島神社を訪れ、戻って京都で自主研修、大阪でユニバーサル・スタジオ・ジャパンと大阪城という内容でした。





遠足

今年は、10月4日(木)に1年次と3年次の遠足が行われました(2年次は修学旅行中です)。

3年次は、バスで十和田湖へ行き、銚子大滝から子ノ口まで奥入瀬渓流を散策しました。その後、バスで休屋へ移動し昼食後、自由散策となりました。豊かな自然の中でリフレッシュした一日となりました。

1年次は、バスで鶴田町の富士見湖パーク(鶴の舞橋)へ行きました。散策後、つがる地球村へ移動、昼食後、それぞれ、サッカーなどスポーツに興じたり、キッズサーキットやバターゴルフを楽しんだり、思い思いの一日を過ごしました。



SSH課題研究発表会

今年度のSSH課題研究発表会は、12月14日㈫に行われました。審査の結果、1班の「重力加速度の測定」が、8月に神戸で行われる全国大会に出場することになりました。

・発表テーマ一覧

1班	重力加速度の測定
2班	Arduinoを用いた車椅子の電動化
3班	タデアイと色素増感型太陽電池
4班	タデアイの抗菌活性について
5班	プラナリアの再生のメカニズム
6班	イネ「赤諸」の形質導入
7班	弘前で観測される地震波の特徴
8班	ユニット折り紙による立体の考察
9班	LEGOで作る！歩行支援ロボット
10班	目指せ！簡単 おいしい 減塩料理



1年次のスキー教室が、1月31日㈯青森スプリング・スキーリゾート(鰐ヶ沢町)で行われました。寒波の襲来が心配されたものの、無事終えることが出来ました。

平成30年度

涉外部 秋田 奈月

(日) 本校会議室において、PTA進路対策委員会主催「平成三十年度進路勉強会」を開催しました。参加者六十名超の盛況ぶりで、会場は満席でした。例年、外部講師を招いて「進路講演会」を行っていましたが、「勉強会」は今年初めての試みです。保護者の間で「子どもの進路についてどう支援してよいかわからない」という悩みが多いことから、今回の研修会は「保護者のための勉強会」を提案しました。大学受験について基礎知識を持たないままでは、子どもへの支援も確実にできないのではないかと考え、「今さら聞けない大学受験～進学編 基本の「き」～」

- ● ● ● ● ● ●

と題して、本校進路指導部
主任による説明と質疑応答
が行われました。

まず大学入試の仕組みに
ついて、入試の種類や評価
方法、大学入試センター試
験等の基礎知識を簡潔にま
とめた資料を用い、本校進
路指導部主任が説明しまし
た。次に、質疑応答で保護
者から用語の確認や今実際
に悩んでいることに関する
質問、三年次保護者からの
体験談など多くの質問・意
見が出て、大変盛り上がり
ました。

アンケートに書いていたた
だいたご意見ご感想を一部
紹介します。

生のお子様の話も参考になりました。経験者の方の声が聞けて良かったです。一年生の親なので、入試

りや年次毎のPTA集会等、先生方に直接相談できる機会もありますので、是非ご参加ください。

◆陸上競技部
青森県高等学校新人陸上競技
対校選手権大会

優良賞
優良賞
三上 拳級
心結
山本
化連盟表彰

文化委員會報告

涉外部
石戸
康幸

